

平成25年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
林産部門

消費者ニーズに応じた付加価値の高い住宅部材の開発と供給

○氏名又は名称 株式会社 沓澤製材所（代表 沓澤 一英）

○所在地 秋田県大館市

○出品財 産物（木材）

○受賞理由

・地域の概要

大館市は、秋田県北部の東側に位置し、日本三大美林の一つに数えられる天然秋田杉の産地として、また、豊富な鉱物資源や農業などにより、秋田県北部の政治、経済、文化の中心として発展してきた。

スギ人工林の多くが伐採利用が可能となり、資源の活用が期待される一方で、天然秋田杉に代表される高齢級のスギ資源が不足し、これまでのスギ高齢級の大径材に依存した製品生産から、スギ人工林で生産される一般材を活用した製品生産への転換が課題となっている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

同社は、戦後、長期にわたり、天然秋田杉を原料として高品質材の生産を主体に事業展開してきたが、天然秋田杉の減少とスギ人工林の充実という地域資源の変化を背景に、板類主体の工場への転換、スギ人工林を使用するスギ一般材製品への転換、高付加価値化に取り組んでいる。このほか、伝統工芸品である桶樽製造を創業時から85年以上継続し、伝統技術の承継を担っており、製材業と桶樽製造を両立している企業として、全国的にも貴重な存在となっている。

・受賞者の特色

（1）販売ルートの開拓

他社に先駆け、大手住宅メーカーやホームセンターなどの直納ルートを自ら開拓し、そのニーズに対応した工業部品化を進めるとともに、人工乾燥や寸法精度の向上に積極的に取り組み、用途を特定しない多目的の高精度で高品質な製品として、首都圏市場でも高く評価されている。

（2）高品質化に向けた取り組み

木材の最大の需要先である建築現場の意見やニーズを取り入れ、製材品を単なる木材製品としてではなく住宅部材の一つとして独自に商品開発を行い、素材の品質はもとより、防腐防蟻処理下地材や下地製材品の部材加工に力を入れ住宅現場のニーズに即した製品の供給に取り組んでいる。

（3）消費者ニーズへの対応

「天然秋田杉」というブランドだけに頼らず、いち早くスギ一般材製品への事業転換を図り、客観的な評価に耐え得る安定した品質の製品づくりを確立させ、経営を安定させるとともに、生産性と消費者ニーズを合致させる作業を繰り返し行うなどの施工の省力化を図るための研究開発を積極的に行い、「定時・定量・定品質」を実行した製品づくりで評価を得ている。

・普及性と今後の発展方向

早い時期から人工乾燥機を導入し、地域内で木材乾燥技術研究会の立ち上げや展示会への出展による連続入賞など、先進的取り組みにより地域を牽引している。

また、育児休業制度や休暇制度の改善など、女性が働きやすい職場環境を整備し、製材関係の企業としては女性従業員の割合が高く、男女共同参画社会の形成に積極的に取り組む企業として地域の模範となっている。